

2012年2月21日

独立行政法人  
日本原子力研究開発機構  
理事長 鈴木 篤之 殿

原発問題住民運動福井県連絡会  
代表委員 奥出春行、河内 猛  
佐藤正雄、多田初江  
原発住民運動福井・嶺南センター  
代表委員 河内 猛、坪田嘉奈弥  
遊津喜由、上原 修一  
岩本敏行、渡辺 孝  
連絡先 福井民医連 0776-27-6648

### 申し入れ書

#### <申し入れ項目>

- 1、福井県民への生命と安心・安全を守るための考えを示してください。  
3・11福島原発災害から、もうすぐ2年になります。福島県では、いまなお15万人を超える県民が避難生活を強いられています。この現状を鑑み貴社において、福井県民の生命と安心・安全を守るための考えを示してください。
- 2、万全な安全対策を確立することを求めます。  
昨年9月の国の保安検査でもんじゅの点検もれが安全上重要なものを含む9600件を超える機器で見つかりましたが、規制委員会の指導に対し、鈴木篤之理事長は「形式的なミスが出るのはやむを得ない」と発言したと報道されました。安全を軽視するような発言は、看過できません。しかも改善対策が示されないまま年頭のあいさつで敦賀本部長、もんじゅ所長より「もんじゅ」の試運転再開の話がでました。安全度外視で試運転再開を求めるなど言語道断です。抜本的改善を求めます。
- 3、危険な「もんじゅ」を即刻、廃炉の決断を求めます。  
地震学の専門家からも若狭湾での巨大地震と原発事故の複合災害「原発震災」の危険性が指摘されています。地震に弱い構造の「もんじゅ」は活断層の真上にあります。原発震災を引き起こしたフクシマ事故を2度と繰り返さないためにも、18年間も停止している「もんじゅ」に、これ以上の国費を投入し、動かすことは許されません。即刻、廃炉を決断されることを強く要請します。
- 4、原発防災対策に対しての住民説明会を求めます。  
東日本大震災後、福井県民の不安は増大しています。原発苛酷事故に備え広域での原発防災対策に対しての住民説明会の開催を求めます。

以上